



鹿中だより

鹿ノ台中学校

校長 三村明弘

平成31年1月7日

みなさん明けましておめでとうございます。

～2019年がすべての人にとって幸せな一年になりますように～

新年がスタートしました。そして3学期がスタートしました。さて、3年生はまさに進路本番です。目指している高校の下見はすみましたか。予定通り勉強ははかどっていますか。ここまでくればもう迷わず！悩まず！決めた目標に向かって突き進んでください。1, 2年生は新生徒会を中心に、3年生から受け継いだ^{たすき}襷を誇りに、新しい鹿ノ台中学校の歴史を築いてください。今年もみなさんの活躍と、全校集会でたくさん賞状を渡すことができることを楽しみにしています。

「門松」



昇降口の正面に「門松」が置かれています。この門松は地域の三宅さんが飾ってくださいました。昔から木のこずえに神が宿ると考えられ、年神を家に迎え入れるための^{よりしろ}依り代という意味合いがあるそうです。みなさんの『夢』が叶いますように！

2学期から体育館の玄関の前に、茎が長いピンクの花の鉢植えがいくつも並んでいたのを覚えていますか。それと、玄関の門松としめなわは誰が置いてくれたのかわからず、ずっと気になっています。心優しい地域の方が、鹿中みんなの心が少しでも癒されればという、さりげない温かな優しい気持ちで置かせてくださったと思います。本当にありがとうございます。

今度は、職員室にお寄りくださるようお願いいたします。

《ちょっとためになる話》 私の尊敬する松下幸之助さんの話です。

相手のあやまちを非難しても、お互いにいがみあうことになっても、このましくない姿にも陥りかねない

お互い人間というものは、人の罪は許すことができにくい、というような傾向があるようです。だから人がわるいことをすれば、すぐに非難したり責めたりする。なかなか寛容な態度をとることができないというわけです。しかし、だからといって、お互いに相手の非を数えたてて非難しあっても、それによってよりよい姿が生まれてくるとはかぎりません。むしろお互いにいがみあい、争いあうというようなことになって、かえってこのましくない姿にも陥りかねないのではないのでしょうか。そういうことを考えていますと、やはりお互いに相手を許し入れるという寛容の心を養っていくことが大切ではないかと思えます。お互いが寛容の心を持ちあうならば、たとえ相手に少しくらいの非があっても、それをあたたかくゆるし、また自分の非もゆるされるということになって、ともども安らかに暮らしていくこともできやすくなるでしょう。そしてそういう姿からは、お互いが安心して伸び伸びと交わり、それぞれの持ち味を十二分に発揮して活動し、生活を営んでいくこともスムーズにできるようになるのではないかと思います。そういったこのましい寛容の心はやはり素直な心から生まれてくるものだと思います。

最近よく言われるようになった「寛容の心」は、自分や相手にはもちろんですが、自分の周りの人みんなが幸せに生きていくための「魔法のような心」かもしれないね。